

第5章

地域づくりの方針

5-1 地域づくりの方針

5-1-1 役割

- 都市づくりの目標の実現に向けて着実な進捗を図るためには、地域でのさまざまな取り組みが必要になります。このため、地域づくりの方針は、地域で暮らす人の土地利用などに視点を置き、地域ごとの特性や課題に応じて、目指すべき地域の将来像やその実現に向けた方針を示すものであり、以下の役割を担います。

- 市域全体を対象圏域とする各種の都市機能が集積する市街地地域と田園集落地域および山間地域との連絡強化のあり方、また、田園集落地域および山間地域の生活利便性を将来にわたって確保する方向性を明確にします。

○地域住民と行政が協働し、地域づくりを進めるに当たっての目標や方針を明らかにします。

5-1-2 地域の成り立ちと地域づくりの方針

- 地形的には、大野市は城下町を中心とする市街地と、その周りを取り囲むように存在する緑豊かな環境に恵まれた田園集落が大野盆地を形成し、その盆地を取り囲む山々などから構成される山間地域で市域を構成していることが特徴です。
- 歴史的には、昭和の町村合併前の区域がおおむねそのまま今の地区を構成しているという特徴があります。
- 地域づくりについては、都市計画運用指針にもあるように「地形的特徴に歴史的背景を踏まえることが重要」であることから、「歴史的特徴である地区単位の生活を生かした地域づくり」を進めます。

表 地域区分

地域	地域の区域設定の考え方	対応する主な地区
①市街地地域	・用途地域および用途地域と一体的な都市空間を形成する（都）東縦貫線より西側の区域	・大野地区 ・下庄地区
②田園集落地域	・大野盆地の内側で、①市街地地域を除く地域（盆地に広がる田園地域）	・下庄地区 ・小山地区 ・富田地区 ・乾側地区 ・上庄地区 ・阪谷地区
③山間地域	・盆地を取り囲む山地、溪谷と谷筋の居住地や自然体験型観光レクリエーションエリアなどからなる地域	・五箇地区 ・和泉地区 ・上庄、阪谷地区の山地部

(地形的特徴)

- 市域 — 大野盆地 —
- ①城下町を中心とする市街地地域
 - ②その周りを取り囲むように存在する
緑豊かな環境に恵まれた田園集落地域
 - ③その盆地を取り囲む山々などから構成される山間地域

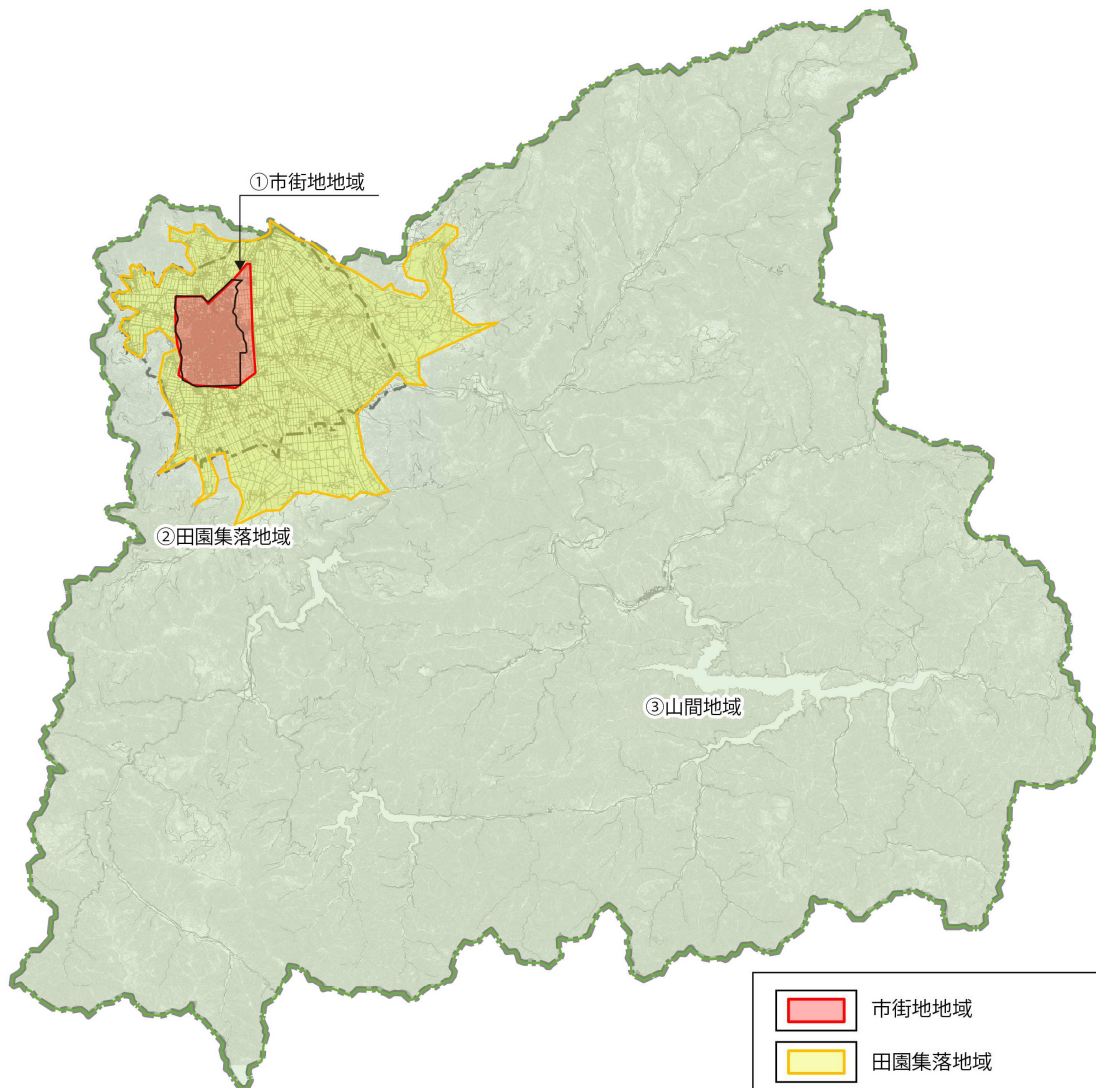


(歴史的特徴)

昭和の町村合併前の区域がおおむねそのまま今の地区を構成している。



『歴史的特徴である地区単位の生活を生かした地域づくり』



	市街地地域
	田園集落地域
	山間地域
	用途地域(642.4ha)
	都市計画区域(5,251ha)
	市域界

5-2 大野らしい地域づくりの土台となる「結の心」と「進化したデジタル技術」

5-2-1 精神的支柱「結の心」

- 大野には古くから「結」と呼ばれる言葉があります。「結」には、昔から農作業や冠婚葬祭などのさまざまな仕事をお互いに助け合う習慣の意味があり、今もこの精神が人々に受け継がれています。
- これからも、先人が大切にしてきた「結の心」を持ち続けるとともに、地域づくりを進める上での基礎とします。

5-2-2 進化したデジタル技術「DX※」

- 担い手不足や高齢化などにより人々の活動力が低下し、「結の心」だけでは、これまでの暮らしを続けることが困難になりつつあることやマンパワー不足、物理的な距離などを克服することができないため、生活をより良いものへとする手段として進化したデジタル技術「DX」で補います。

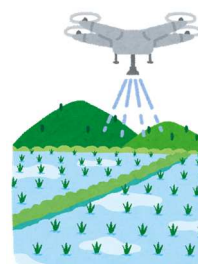
サテライトオフィス※



オンライン診療



スマート農業※



スマート林業



リモート窓口



スマート物流



5-3 持続可能な地域づくりのあり方

地域づくりの方針については、「結の心」とそれを補う「DX」をベースにして、次の2つの方針を設定します。

そして、その2つの方針を両輪として「住み続けられる地域づくり」を進めます。

5-3-1 地域生活拠点の確立による地域全体の生活利便性の確保、 共助のまちづくりによるコミュニティの活力維持

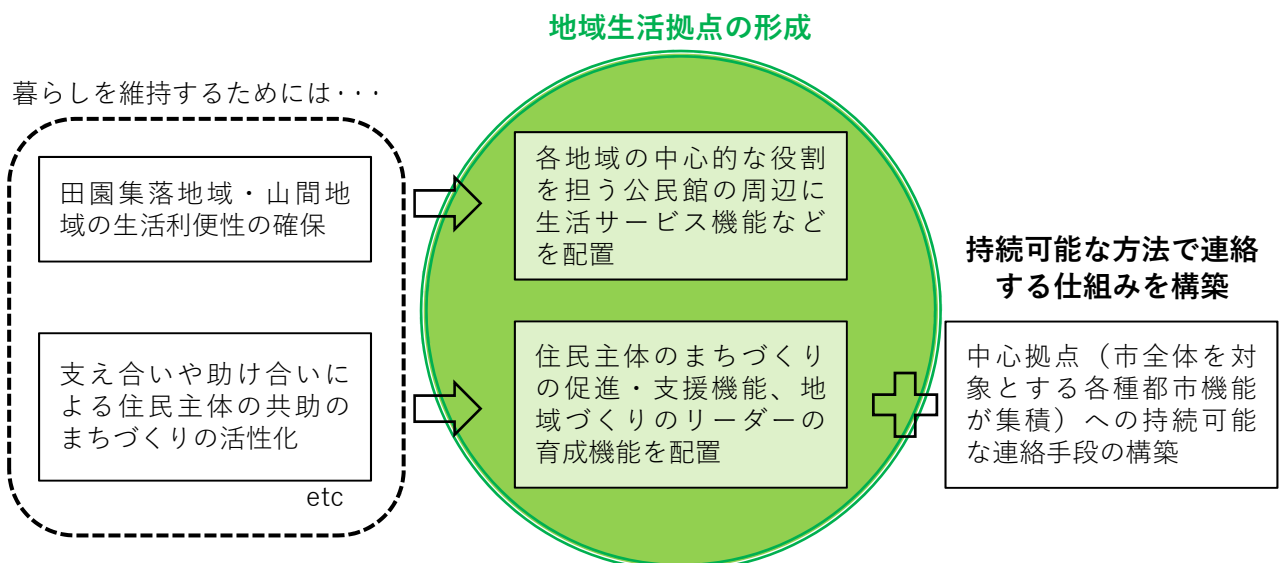
【地域生活拠点の形成】

- 地域のよりどころとなる拠点として公民館を中心とした「地域生活拠点」を形成します。地域の生活利便性を確保するため、なるべく身近な場所に日常生活に必要な機能などを配置・集積します。
- 持続可能な地域づくりに必要な「住民主体でさまざまな地域の課題を捉え、対応する、マネジメントする機能」についても地域生活拠点の重要な役割であることから、地域住民が主体のまちづくりを促進・支援する機能を設置します。

5-3-2 市街地地域と田園集落地域・山間地域の連絡

【持続可能な方法で連絡する仕組みを構築】

- 多様な都市機能が集積する市街地地域と田園集落地域・山間地とのアクセスについて、将来にわたって持続的な方法で連絡する仕組みを構築します。
- 地域において中心的な役割を担う地域生活拠点と市街地地域の連絡や、各集落と地域生活拠点との連絡によって、各種の都市機能へアクセスできるネットワークを確立します。
- ネットワークを連絡する移動手段としては、公共交通や福祉輸送、ご近所の助け合いによる乗り合わせマッチングなど、さまざまな主体による「過度に自家用車に頼らない」移動手段を確保します。

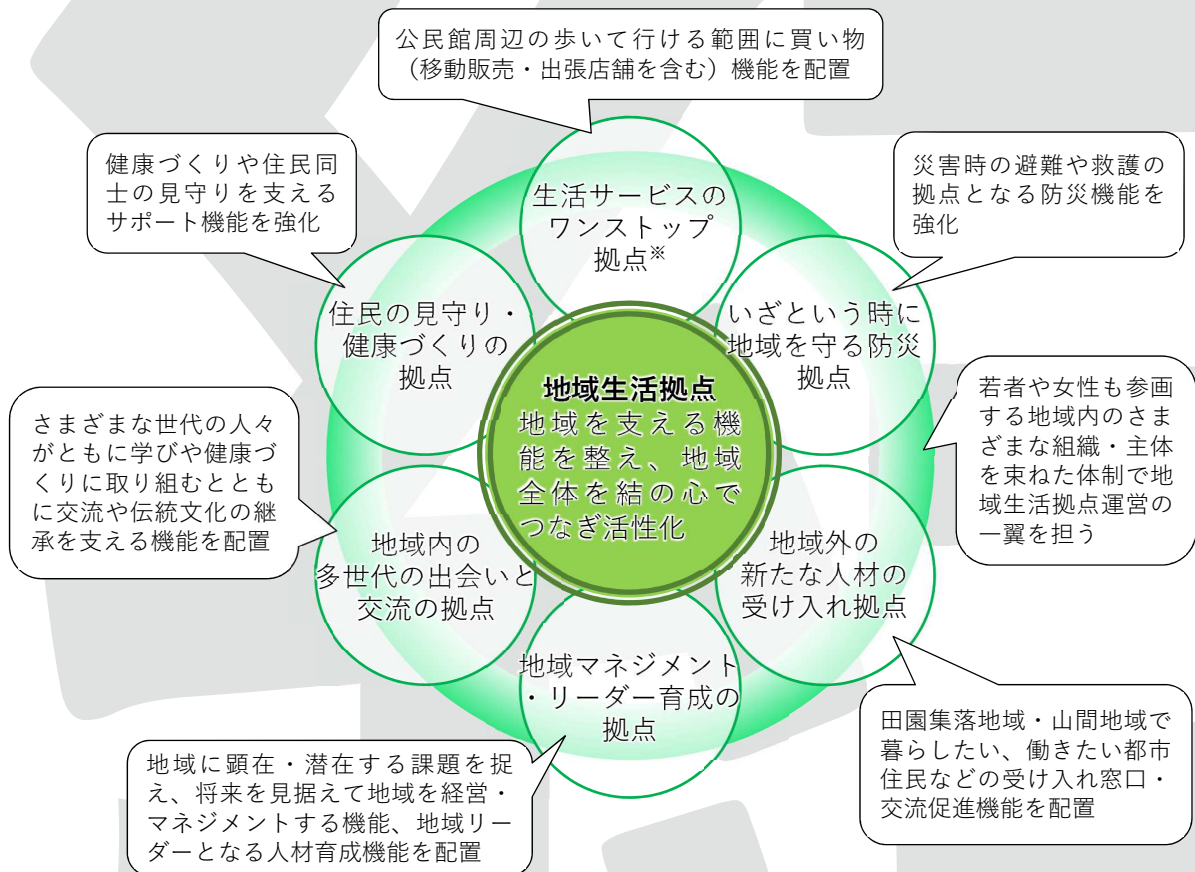


5-3 持続可能な地域づくりのあり方（概念図）

①地域生活拠点の確立による生活利便性の確保、

共助のまちづくりによるコミュニティの維持

- ・地域生活拠点の形成
- ⇒身近な生活サービス機能などを配置
- 住民主体の地域マネジメント



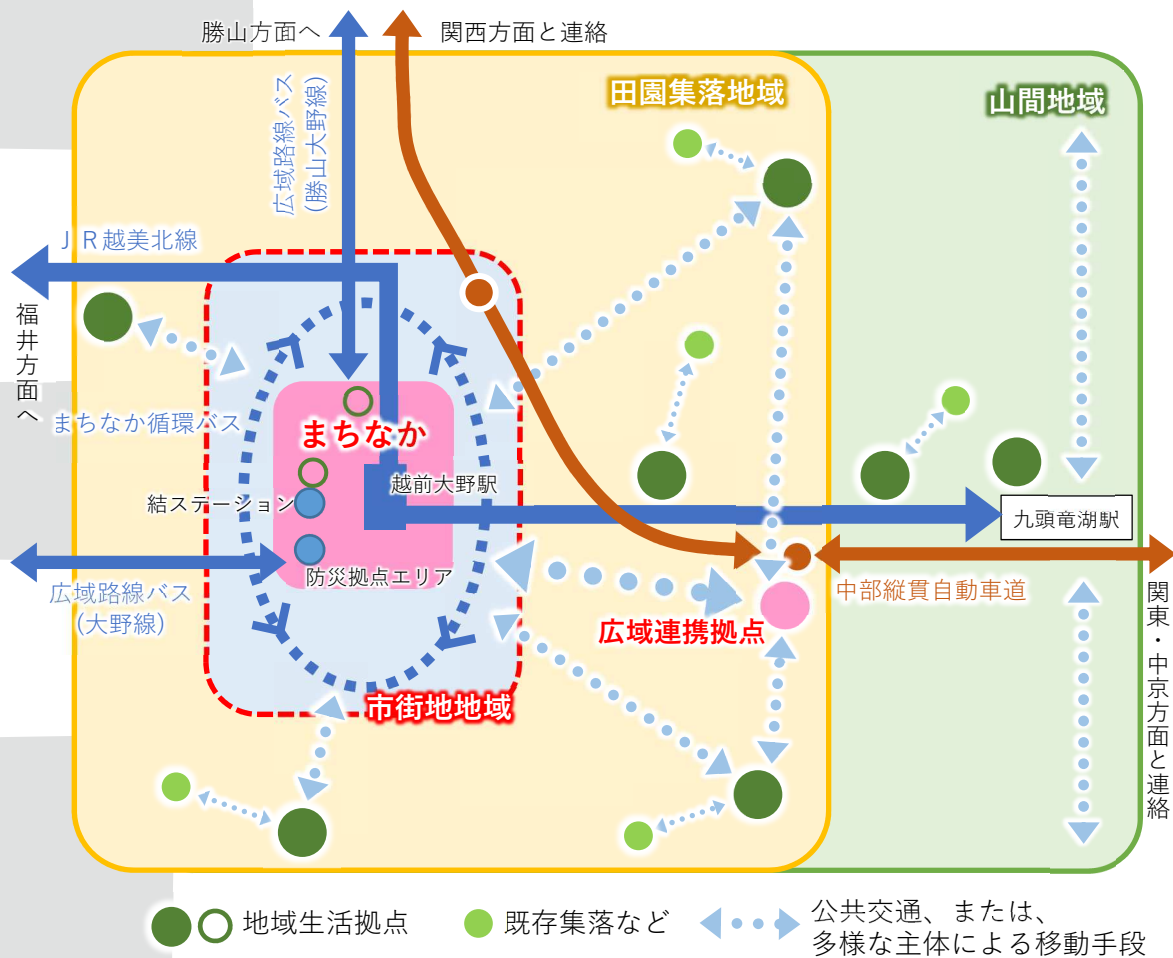
地域生活拠点が担う機能の概念図

※あくまでイメージであり、住民の意向を踏まえつつ各地域の特性、状況に応じて検討を進めます
※市街地地域においても、住民主体による地域課題の解決を促進・支援する機能の充実を進めます

②市街地地域と田園集落地域・山間地域の連絡

・持続可能な方法で連絡する仕組みを構築

⇒過度に自家用車に頼らず都市機能にアクセスできるネットワーク
さまざまな主体による移動手段



市域全体の持続可能な交通ネットワークの概念図

5-4 市街地地域の地域づくり

5-4-1 地域づくりの課題

(1) 大野市の中心にふさわしい、まちの活力維持が必要です

- 商業や医療、福祉など各種の都市機能が立地し、総人口の57.2%（令和2年（2020年））が暮らす人口が集積する地域ですが、人口減少が進んでいます。
- 人口が減少し、人口密度が低下し続けると、店舗や金融機関など生活を支える各種の都市機能の立地を維持することが難しくなり、市域全体の生活利便性が損なわれるため、人口密度を一定程度確保する必要があります。

(2) まちのにぎわい回復のため、空き家化の未然防止や空き家・空き地の有効活用が必要です

- 人口減少に伴い、空き家や空き地が増加しています。適切な管理がされない空き家や空き地は景観面や防災・防犯面で課題になり、地域の魅力を損なってしまうため、これらの適正管理、未然防止に取り組む必要があります。
- 空き家を活用した住まいづくりや新規創業を促進するなど、まちのにぎわい回復や地域コミュニティの維持に向けて有効活用を推し進める必要があります。

(3) 人に優しい市街地づくりが必要です

- 多様な人が利用する公共公益施設や商業施設などはイベント会場となる機会が多くあります。小さな子ども連れでもこれらの施設が利用しやすいように、施設環境や移動環境を整える必要があります。
- これらの取り組みを通して、高齢者や障がいのある人、観光客を含め、全ての人にとって便利で快適なまちづくりにつなげる必要があります。

(4) 住民の誇りと愛着につながる個性を大事にした空間づくりが必要です

- 市街地地域の中心部には、越前大野城や寺町通りなどの古い街並み、湧水地や七間朝市などの観光資源が多くあり、これまでその整備を進めてきました。また、市民や事業者による誘客イベントも積極的に開催され、多くの観光客が訪れています。
- このような市民が代々受け継いできた歴史資産や観光資源をさらに活用し、新しいものを取り入れていくことにより、他の地域にはない、人の営みを感じ、観光客などに魅力を感じてもらえるまちづくりが求められています。

5-4-2 地域づくりの目標

**「固有の歴史、文化を感じ取ることができる
魅力とにぎわいにあふれ、
快適に暮らすことができる市街地地域」**

○近世に整備された城下町を中心に、固有の歴史、文化を培いながら、都市基盤と各種の都市機能の立地を進めてきた大野市の中心として、湧水などの固有の地域資源やこれまでに積み重ねられてきた資産を有効活用し、今後も若者や子育て世代を含むさまざまな層の市民や来訪者が集い、交流や活力あふれるまちを目指します。

5-4-3 地域づくりの方針

(1) 便利で快適な市街地づくり

【中心拠点の機能の維持・充実】

- 城下町を起源に発展、拡大してきた中心拠点において、生活サービス機能の充実と居住環境の魅力向上に重点的に取り組み、まちなかへの居住を促進します。
- まちなかの商業機能の担い手の確保、活性化や空き家を活用した新規創業を促進し、将来にわたって便利でにぎわいのある中心拠点づくりを進めます。

【空き家や空き地の利活用などによる定住人口の確保】

- まちなかの空き家を活用した移住・定住者や子育て世帯の住まいづくりを支援します。
- 空き家を活用した暮らしづくりとして、子育てのサポートなどを受けやすく、親世帯の見守りなどがしやすい多世代近居や同居を支援します。
- 空き家や空き地が点在する街区では、関係者によるまちづくり組織が主体となった土地の再編や集約化をし、安全で暮らしやすい居住環境を整えるなど、地域の実情に応じたまちづくりの促進を検討します。

【子育て世代や高齢者など、誰もが利用しやすい施設づくり】

- 結とぴあ、図書館、有終公園など公共施設が集積している市役所周辺は、子育て世代などのニーズを踏まえ、事業者との連携を含めた魅力向上に努めることにより、市民が集い、憩いやすいエリアづくりを進めます。
- 生活に身近な街区公園は、利用者のニーズを把握し、子どもが安心して遊べる公園、高齢者が憩える公園づくりを進め、一層の利活用を促進します。

(2) 誰もが移動しやすい交通ネットワークづくり

【公共交通の利便性向上】

- 本地域には、公共施設をはじめ、商業や福祉、医療など暮らしに欠かせない生活サービス機能が集まっているため、多様な移動手段の担い手が連携し、公共交通の利便性を向上させ、誰もがこれらのサービスを円滑に利用できる環境づくりを進めます。
- 鉄道とバスの乗り継ぎの改善や、市街地における沿道の店舗と連携した待ち時間を快適に過ごすことができる空間の創出など、利用者の利便性向上に努めます。

【居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり】

- 車両の進入抑制などによる歩行者中心の交通環境の実現や、人々が集まることのできるゆとりある滞留空間づくりなどを検討し、まちに出かけたくなる快適で安全な環境づくりを推進します。
- 市民の憩いの場である亀山公園は、豊かな自然と歴史が感じられ、安全で快適な公園に整備します。また、周辺の既存施設や大野簡易裁判所跡地と連携して、憩いや散策しやすいまちづくりを進めます。
- 日常生活や観光における自転車の有効活用および利用促進を図るため、自転車通行の市街地ネットワークを形成し、自転車の利用環境の充実に努めます。

【長期未着手都市計画道路の見直し】

- 長期間未着手となっている都市計画道路は、現時点における整備の必要性を再検証し、路線の廃止や変更などの見直し、地域住民の意向を踏まえた代替策の検討を進めます。



都市機能の集積

(3) リスクに備える安全、安心なまちづくり

【赤根川、清滝川の改修】

- 関係機関および地域住民と連携し、赤根川、清滝川の改修を促進し、治水安全度の向上を図ります。

【水害リスクの低減】

- 立地適正化計画に基づく防災指針により、土地利用規制などの被害対象を減少させるための対策や、被害を軽減させるための取り組みを検討します。

【自然災害リスクの周知、共助による備えの促進】

- 日頃から自分の身を守るための備えや適切な避難行動がとれるよう、ハザードマップなどを用いて地域の災害リスクの周知を図り、一人ひとりの防災意識の向上を促進します。
- 自治会や自主防災組織の単位ごとに避難行動要支援者の所在把握、災害危険個所の把握、避難所の開設手順、防災備蓄を確認するなど、緊急時の対応体制確立を促進します。

(4) 愛着と誇りの醸成、交流活性化につながる魅力的なまちづくり

【歴史的な街並みの継承】

- 五番通り、七間通り、寺町通りの景観形成地区※において、町家などの修景に対する支援や空き家や空き地の活用を促進するなど、歴史的な街並みの継承を図ります。
- まちなかから越前大野城への眺望景観や古い街並みの保全、歩きたくなる空間づくりを推進するため、まちなか観光ルートなどにおける無電柱化を検討します。

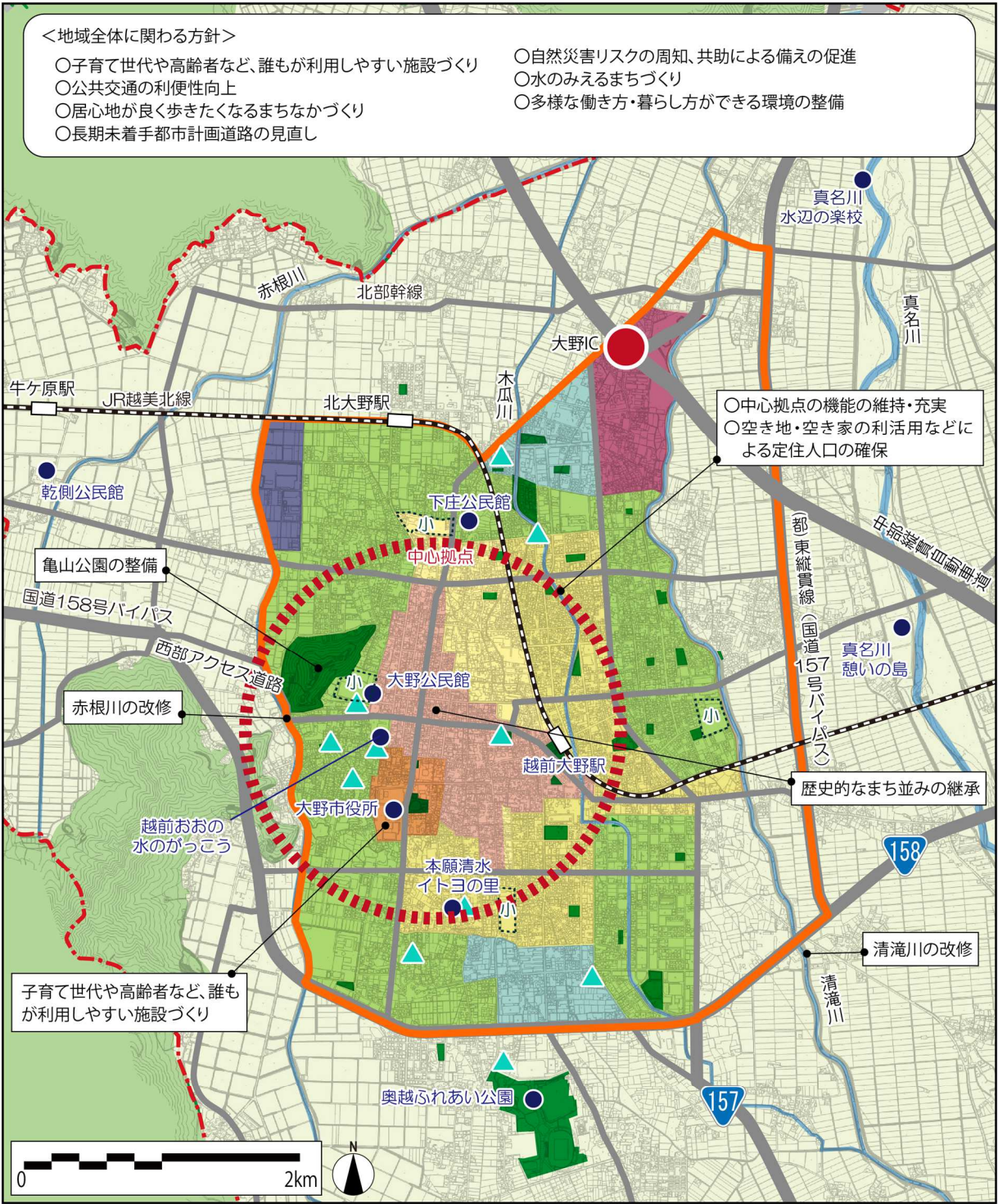
【水のみえるまちづくり】

- 御清水などを始めとする湧水地は、古くから住民の暮らしと密接に結びついた歴史資産であり、潤い豊かな憩いの場として、市民や観光客が水を五感で感じることができる環境づくりを推進します。
- 「本願清水イトヨの里」や「越前おおの水のがっこう」を活用し、児童や生徒に本市の水文化に触れる機会を提供するなど、地域資源を通じた故郷への愛着や誇りの醸成を図ります。
- 市外の方や観光客など、より多くの方に本市の水文化を知らしめ、観光誘客を図ります。
- 公共下水道の未普及地を解消するとともに、供給開始区域における加入を促進します。

(5) 新たな生活様式に対応するまちづくり

【多様な働き方・暮らし方ができる環境の整備】

- まちなかの空き家を活用したコワーキングスペース※の整備やIT企業などのサテライトオフィスの立地を促進するなど、多様な働き方がしやすい環境づくりを進めます。
- 先端的なICT技術の導入およびICT人材の育成を促進し、都市部との距離に関わりなく交流や学び、働く環境が得られるような環境整備に取り組みます。



【凡 例】

商業ゾーン	工業ゾーン	公園・緑地	鉄道・駅
行政サービスゾーン	田園ゾーン	主な湧水ポイント	主要河川
一般住宅ゾーン	森林ゾーン	小学校	都市計画区域
専用住宅ゾーン	主要な施設	中部縦貫自動車道・インターチェンジ	地域界
広域サービスゾーン		主要幹線道路	
住工共存ゾーン		幹線道路	

図 市街地地域の地域づくり方針

5-5 田園集落地域の地域づくり

5-5-1 地域づくりの課題

(1) 高齢化の進行を見据えた持続可能な地域づくりが必要です

- 総人口の40.8%（令和2年（2020年））が暮らす地域ですが、平成22年（2010年）から令和2年（2020年）にかけて人口が14.7%減少し、高齢化や担い手の減少が進んでいます。
- 今後、一層、独居や夫婦のみの高齢者世帯が増えることが予測されるため、地域住民相互の支え合いや、地域外の人材の参画・支援を含め、「結の心」で支え合う持続可能な地域づくりが必要です。

(2) 誰もが必要な機能にアクセスできる移動手段の確立が必要です

- 地域生活拠点において身近な生活サービス機能の確保・充実を進めるとともに、誰もが多様な都市機能が立地する市街地地域にアクセスできる移動の仕組みを構築する必要があります。

(3) 自然環境の魅力充実と、その魅力を体験できる環境整備が必要です

- 地域内には、真名川河川敷サイクリングコースや真名川水辺の楽校※、乾側地区の花のジュータン（芝桜）など、豊かな自然環境を楽しめる施設・景観があります。地域住民や事業者との協働によりその魅力を充実させ、体験できる環境づくりを進め、地域の活性化につなげる必要があります。

5-5-2 地域づくりの目標

「緑豊かでゆとりある環境を伝え継ぐ 美しく暮らしやすい田園集落地域」

○農地や河川、山林などの自然環境に包まれながら、代々人々が暮らしを紡いできた田園集落地域で、地域の特性を生かし今後も住民が元気で希望を持ち、快適に暮らし続けることができる地域を目指します。

5-5-3 地域づくりの方針

(1) それぞれの地域特性に応じた持続可能なまちづくり

【地域生活拠点の形成】

- 生活利便性や地域コミュニティの活力を維持するため、地域住民などと行政の協働によって、身近な生活サービスや地域福祉、学習・交流、地域マネジメントなどの機能の確保、強化を推進します。
- 地域のよりどころとなる拠点として、各地域の公民館を維持していくとともに、子育て世代や高齢者など誰もが利用しやすい施設として利便性の向上を進めます。
- 公民館周辺の空き地などを活用し、移動販売などのサービスがしやすい空間づくりを進めるなど、各地域の実情を踏まえて生活利便性の維持、向上を推進します。

【過度に自家用車に頼らず“健幸”に暮らせる持続可能な移動システムの構築】

- 公共交通や地域住民の助け合いによる輸送などの組み合わせによって、持続可能な移動の仕組みを構築し、過度に自家用車に頼らず買い物や通院などの外出ができる環境づくりを進めるとともに、地域生活拠点における乗り継ぎ機能を検討します。
- 公民館の周辺において、面的な速度抑制（ゾーン 30）を検討するなど、生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保する環境づくりを進めます。

【集落の生活環境、地域コミュニティの維持】

- 集落の住民が住みやすいと感じられる生活環境の維持、空き家化の未然防止に努め、農家住宅や集落環境を次世代に継承していきます。
- 集落活動などを継続するために、若者の参加による世代間交流や、関係人口の創出、移住・定住者の受け入れに取り組むなど、担い手の確保や人材育成を進め、暮らしを支えるコミュニティを維持していきます。

【多様な暮らし方、働き方ができる環境づくり】

- 空き家を活用した移住・定住者の住まいづくりや、子育てのサポートなどが受けやすい多世代同居の暮らしづくりを支援します。
- 高齢者や患者の移動負担の軽減を図るため、オンライン診療などの遠隔医療の導入に向けた検討、ＩＣＴインフラの整備を進めます。
- 若い世代の移住・定住を促進するため、５Ｇインフラの整備やテレワークの受け皿となるコワーキングスペースやサテライトオフィスなどの整備を促進し、ＩＣＴ関連企業などの誘致を推進します。



人と地域をつなぐ居場所づくり

(2) 地域産業の創出、活性化を牽引するまちづくり

【中部縦貫自動車道の整備促進】

- 地域間交流や物流の活性化を図るため、中部縦貫自動車道の整備を促進します。

【産業振興拠点の形成】

- 中部縦貫自動車道の開通による交通利便性の向上を生かして、魅力ある企業を誘致し、雇用の場の確保と新たな産業の育成に努め、周辺の土地利用や環境と調和した産業振興拠点を形成します。

【インターチェンジや道の駅から各地への道路ネットワークの確立】

- 荒島ＩＣおよび道の駅「越前おおの 荒島の郷」から中心拠点や自然体験型観光レクリエーションエリアなどの観光地に、また観光地相互の回遊をスムーズに誘導する道路ネットワークの強化、案内機能の充実を推進します。

【道の駅を核とする地域の活性化】

- 道の駅「越前おおの 荒島の郷」において、市の魅力あるさまざまな地域資源に関する情報を提供するとともに、市内への回遊性向上や周遊滞在型観光の推進につながる機能の拡充を進め、地域の活性化を図ります。



道の駅「越前おおの 荒島の郷」

（３）地域の魅力を生かした潤いとゆとりが実感できる環境づくり

【田園集落地域にふさわしい景観の形成と保全】

- 田園風景を形成する主要な要素である農地は、スマート農業の導入を含めた農業施策と連携を図りながら農業の振興を促進し、田園の保全に努めます。
- 荒島ＩＣおよび道の駅「越前おおの 荒島の郷」周辺は、来訪者を迎え入れる場所として、農村風景や荒島岳などの山並みと調和した美しい景観形成を進めます。
- 大型店の立地規制を継続するとともに、一定規模以上の宅地開発などについても事業者などに協力を求めることにより立地を誘導し、市街地の拡大を抑制します。
- 福井方面からの本市の玄関口となる国道 158 号バイパスは、無電柱化を進めます。
- 乾側地区の花のジュータン（芝桜）や下庄地区の矢ばなの里、上庄地区の越前おおのエコフィールドなど、良好な景観形成に向けた住民などの取り組みを支援します。
- 「日本一美しい星空」に選ばれた星空を守るため、南六呂師区において光害の影響がない暗く美しい星空を保護・保全する取り組みを進め、星空保護区の認定を目指します。

【良好な水辺環境の活用】

- 真名川水辺の楽校をはじめ、真名川や九頭竜川などの主要な河川は、身近な自然体験や学習の場として有効活用していきます。

【総合公園奥越ふれあい公園の魅力充実】

- 総合公園奥越ふれあい公園は、市民や来訪者が緑に親しみ、憩いやスポーツ、レクリエーションの場として利用できるように適切に管理します。また、一層の利活用を促進するため、移動販売などの事業者との協働による利便性向上など、子育て世代のニーズなどに柔軟に対応できる方策を検討します。

【自転車利用環境の整備】

- 雄大な大野盆地の広がりを楽しむことができる自転車利用環境の整備を推進し、真名川河川敷サイクリングコースをはじめとする郊外ネットワーク（観光レクリエーションルート）などの活用を促進します。



シバザクラ

(4) リスクに備える安全、安心なまちづくり

【自然災害リスクの周知、共助による備えの促進】

- 日頃から自分の身を守るための備えや適切な避難行動がとれるよう、ハザードマップなどを用いて地域の災害リスクの周知を図り、一人ひとりの防災意識の向上を促進します。
- 自治会や自主防災組織の単位ごとに避難行動要支援者の所在把握、災害危険個所の把握、避難所の開設手順、防災備蓄を確認するなど、緊急時の対応体制確立を促進します。

【田んぼダムへの協力の促進】

- 農地の多面的機能の維持の取り組みと連携して、「田んぼダム」への協力など、市街地地域や下流流域での浸水被害の軽減に向けた雨水対策を検討します。

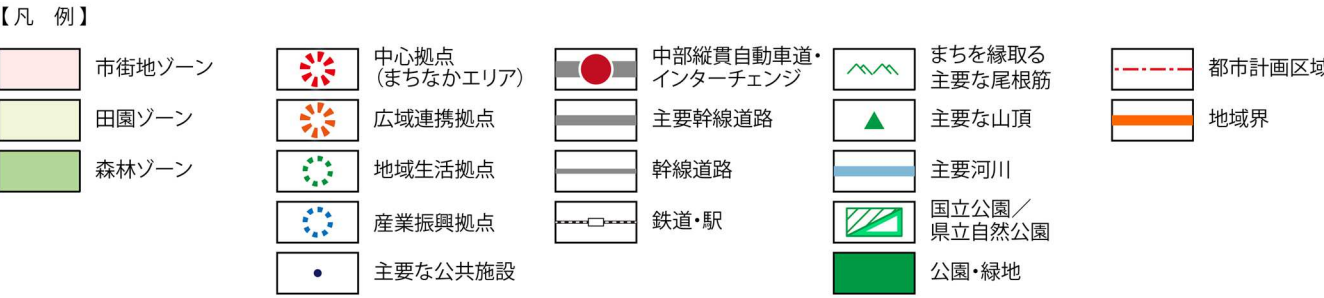


図 田園集落地域の地域づくり方針

5-6 山間地域の地域づくり

5-6-1 地域づくりの課題

(1) 社会環境の変化や住民のニーズに対応できる地域づくりが必要です

- 総人口の2.0%（令和2年）が暮らす地域です。
平成22年（2010年）から平成27年（2015年）にかけて人口が13.9%減少しましたが、平成27年（2015年）から令和2年（2020年）の5年間では、21.6%増加しています。これは、中部縦貫自動車道の工事の影響による一時的な増加と考えられます。
- 山間地域の環境や資源を生かした産業興しなどにより、若い世代のUターンや移住の促進に一層取り組むとともに、地域住民相互の支え合いや、地域外の人材の参画・支援を含め、「結の心」で支え合う持続可能な地域づくりが必要です。

(2) 広域アクセス条件の向上を生かし交流人口の増加、産業化が必要です

- 六呂師高原や九頭竜湖、キャンプ場やスキー場など、水や緑が豊かな自然レクリエーション施設があります。中部縦貫自動車道の県内全線開通などの広域アクセス条件の向上を生かし、定住人口の減少に伴う活力低下を補うことができるよう、市民や観光客が訪れ、交流人口を増やすレクリエーション環境の魅力向上が必要です。

(3) 安心して暮らし続けられる移動手段の確立が必要です

- 地域生活拠点において身近な生活サービス機能の確保・充実を進めるとともに、誰もが多様な都市機能が立地する市街地地域にアクセスできる移動の仕組みを構築する必要があります。
- JR越美北線は、住民の生活や地域産業に一翼を担う観光交流の生命線であり、路線の維持や便数の確保、利便性の向上を図る必要があります。

(4) 森林など自然環境の保全による自然災害の防止、美しい景観の維持が必要です

- 地域の大部分を占める森林は、土砂災害や洪水の防止、水源の涵養、緑豊かな景観形成などの役割を果たしていることから、今後も多面的な機能を維持できるよう保全する必要があります。

5-6-2 地域づくりの目標

「雄大な自然を守り 四季を通じた交流が 活力を生み出す山間地域」

○河川や湖、森林の自然環境を生かし、広域アクセス条件が高まる好機を逃さず、観光交流などの産業を活性化させながら、雄大な自然に包まれたゆとりある暮らしを楽しむことができる地域を目指します。

5-6-3 地域づくりの方針

(1) 生活利便性および地域コミュニティの活力を維持するまちづくり

【地域生活拠点の形成】

- 生活利便性や地域コミュニティの活力を維持するため、地域住民などと行政の協働によって、身近な生活サービスや地域福祉、学習・交流、地域マネジメントなどの機能の確保、強化を促進します。
- 地域のよりどころとなる拠点として、各地域の公民館を維持していくとともに、子育て世代や高齢者など誰でも利用しやすい施設として利便性の向上を進めます。

【過度に自家用車に頼らず“健幸”に暮らせる持続可能な移動システムの構築】

- 公共交通や地域住民の助け合いによる輸送などの組み合わせによって、持続可能な移動の仕組みを構築し、過度に自家用車に頼らず買い物や通院などの外出ができる環境づくりを進めるとともに、地域生活拠点における乗り継ぎ機能を検討します。

【集落の生活環境、地域コミュニティの維持】

- 集落の住民が住みやすいと感じられる生活環境の維持、空き家化の未然防止に努め、農家住宅や集落環境を次世代に継承していきます。
- 集落活動などを継続するために、若者の参加による世代間交流や、関係人口の創出、移住・定住者の受け入れに取り組むなど、担い手の確保や人材育成を進め、暮らしを支えるコミュニティを維持していきます。



和泉地域交流センター

【多様な暮らし方・働き方ができる環境づくり】

- 豊かな自然環境、静かでゆとりある生活環境を好む移住・定住者の、空き家を活用した住まいづくりを支援します。
- 高齢者や患者の移動負担の軽減を図るため、オンライン診療などの遠隔医療の導入に向けた検討、ICTインフラの整備を進めます。
- アウトドア・アクティビティを楽しむことができる地域特性を生かし、長期滞在型の観光や移住・定住を促進するため、5Gインフラやテレワークの受け皿となるコワーキングスペースの整備を支援するなど、多様な働き方ができる環境づくりを推進します。

(2) 交流人口の増大、地域産業の活性化を牽引するまちづくり

【自然体験型観光レクリエーションエリアの魅力強化】

- 六呂師高原や九頭竜湖、麻那姫湖の周辺などでは、事業者や関係機関との連携・協働により、自然体験型観光レクリエーションや交流の拠点として、魅力の強化を進めます。

【移動しやすい道路ネットワークの確立】

- 日常生活の利便性向上や観光振興、地域産業の活性化に大きく寄与する中部縦貫自動車道の整備を促進します。
- 中部縦貫自動車道および国道158号を軸として、各地の観光地などにスムーズに移動できる道路ネットワークの確立、案内機能の充実を促進します。
- 中部縦貫自動車道開通後は国道158号をゆっくりと湖畔や豊かな森林などの景観を楽しんでもらえるドライブウェイとして位置付け、来訪者に移動を楽しみながら地域の魅力を感じてもらおう仕掛けづくりを検討します。
- 国道158号は、バイクや自転車利用者が移動を楽しめる環境整備に取り組みます。

【山間地域の自然環境に調和した景観形成】

- JR九頭竜湖駅や道の駅「九頭竜」など来訪者を出迎える玄関口では、周囲の緑豊かな景観との調和に配慮し、駅舎や広場などの適切な維持管理を行います。
- 勝原ICや下山IC、九頭竜IC周辺では、来訪者を意識し、大野市の自然の豊かさを感じることができる景観形成を進めます。
- 中部縦貫自動車道を利用する来訪者に対し、「九頭竜」の認知度向上の取り組みを実施するとともに、足を止めたくなるエリアづくりに努めます。
- 荒島岳、飯降山などの盆地を縁取る主要な山並みは、本市の骨格的な緑地であることから、林業施策と連携を図りながら適切な維持管理、保全に取り組みます。
- 豊かな自然と自然遺産を生かした環境づくりなどにより、観光と合わせて学びの機会を提供するなど新たな地域産業の創出に資する取り組みを検討します。

(3) リスクに備える安全、安心なまちづくり

【自然災害リスクの周知、共助による備えの促進】

- 日頃から自分の身を守るための備えや適切な避難行動がとれるよう、ハザードマップなどを用いて地域の災害リスクの周知を図り、一人ひとりの防災意識の向上を促進します。
- 自治会や自主防災組織の単位ごとに避難行動要支援者の所在把握、災害危険個所の把握、避難所の開設手順、防災備蓄を確認するなど、緊急時の対応体制強化を促進します。

【災害や雪に強い道路づくり】

- 地震や水害などの災害時の円滑な救援活動、物資の輸送を支えるため、中部縦貫自動車道と既存の国道158号の2路線による強靱な道路ネットワークを確立します。
- 集落間や観光地を結ぶ幹線道路は、特に冬季における安全で安心な通行の確保のため、スノーシェッド※などの維持管理を適切に行います。



建設中の九頭竜IC

